

年表 (一) (北海道関係明治時代以前の主な事項)

年号	西歴	史	年号	西歴	史
齊明四	六五八	<p>○阿倍比羅夫、舟師一八〇艘を率いて海路より蝦夷を討ち淳代、津軽の郡領を定め、渡島の蝦夷を有間浜に集めて大いにもてなした(四月)また、肅慎(靺鞨)を討った</p> <p>(注)渡島は北海道のこと。肅慎は黒竜江、松花江、烏蘇里江などの流域である沿海州に住むツングース族の地方のことであるが、樺太方面のツングース族でないかとの説もあり、地域は明らかでない</p> <p>○阿倍比羅夫、渡島の蝦夷を討ち、郡領を後方羊蹄に置く(三月)。胆振鉏に蝦夷を集めて大いにもてなし肉入籠に至る</p> <p>(注)後方羊蹄の所在不詳。胆振鉏は勇払郡、肉入籠は沙流郡平取村の地といわれる</p> <p>○阿倍比羅夫、舟師二〇〇艘を率いて渡島の肅慎を討つ。渡島の蝦夷は服従した。肅慎は弊路弁島に帰りを請ったが許さずこれを討つ(三月)</p> <p>(注)弊路弁島は利尻、礼文か樺太といわれるが不詳</p> <p>○越渡島蝦夷イナリムシ、肅慎シラシエサウに錦袍、絹糸、斧などを賜う(三月)</p> <p>○渡島蝦夷及び出羽蝦夷八七人が上京(奈良)し馬千頭を貢じた</p> <p>○渡島津軽津司の諸君鞍男等六人を靺鞨国に遣わし、風俗を視察させた</p> <p>(注)渡島津軽津司は渡島で津軽への渡り口にあった役</p>	<p>延暦二</p> <p>二二</p> <p>七八三</p> <p>宝龜二</p> <p>七八〇</p> <p>出羽の蝦夷反乱(六月)</p> <p>○坂上田村麻呂、胆沢城を築く</p> <p>○渡島蝦夷叛き、船に乗じて秋田飽海二郡を侵す</p> <p>○渡島の蝦夷が叛乱し、水軍八〇艘、秋田・飽海二郡の民二一人を殺傷。牧宰に命じてこれを討たさせる</p> <p>○秋田地方の蝦夷が叛く。渡島蝦夷は朝廷に味方する(三月)藤原保則、小野春風らがこれを平定した。</p> <p>○源頼朝、奥羽平定(九月)北海道はこのころから「蝦夷ヶ島」と言われ、津軽の安東堯秀の管領となる。強盗や海賊の島流しにした</p> <p>○僧日蓮の高弟、日時上人渡来</p> <p>○安東氏が北条氏に叛き津軽十三湊に居館</p> <p>蝦夷島の蝦夷は安東氏に味方する</p> <p>○安東氏と和睦</p> <p>○蝦夷ヶ島に渡党、日本、唐子の三党があることが知られた</p> <p>○荒木大学、薬師堂を渡島の知内温泉に建てる</p> <p>○下国安東太郎盛季、南部氏に攻められ蝦夷島に渡る</p> <p>○盛季の第二子安東康季、津軽に渡り病死</p> <p>○康季の子安東義季、津軽鼻知郡大浦郷に拠る</p>		
持統一〇	六九六		貞観二	八〇二	
養老二	七一八		貞観一	八六九	
四	七二〇		一七	八七五	
			元慶二	八七八	
			文治五	一一八九	
			永仁四	一二九六	
			正和一	一一二二	
			嘉曆三	一一三六	
			正平二	一一五八	
			嘉吉三	一一四三	
			文安三	一一四六	
			宝徳三	一一五一	

年号	西歴	史	実
亨徳 二	一四五三	○安東義季南部の兵に攻められ敗死	
三	一四五四	○安東政季南部より逃れ蝦夷島に入る。武田信広、相原政胤、河野政道ら従う(八月)	
康正 二	一四五六	○蝦夷が蜂起し鷗川、余市以南の和人殺される	
長祿 一	一四五七	○志台、箱館、大館(福山)その他数カ所の館が蝦夷に攻められ陥落。ただ花沢(上国)、茂別の二館は持ちこたえ、諸館主が連合して蝦夷と戦い、特に武田信広奮闘、夷酋胡奢魔允を殺す(五月)。信広、花沢館主蠣崎季繁の養子となる。この年太田道灌が江戸城を築く	
明応 三	一四九四	○蠣崎信広没す(五月二十日)。光広(松前家第二代)が嗣ぐ	
永正 九	一五二二	○蝦夷蜂起、箱館、志苔、与倉の三館が陥る。河野季通、小林良定、小林季景戦死(四月)	
一	一五一四	○蠣崎光広、船一八〇艘をもって大館に入り修築して徳山と名づけ、安東氏の代官となる(三月)	
一五	一五一八	(注)徳山は当時大館と呼ばれ、移民地の中心で安東氏の代官がいた。徳山付近の地名を「松前」と呼ばれていた	
亨祿 二	一五二九	○蠣崎光広没す六三歳。義広(松前家第三代)を嗣ぐ(七月)	
天文 五	一五三六	○西部瀬棚の夷酋多奈計支以下来寇。義広が計りそして後、撃つてこれを平定(三月)	
二〇	一五五一	○西部酋長多理古那(多奈計支の女婿)来寇。義広が計りそして後これを斃した(六月)。これにより東西の蝦夷が鎮まった	
天正 六	一五七八	○蠣崎季広、東西蝦夷と講和して蝦夷地貿易の制を定めた。このころからこんぶ、鮭などの産物が本州に売られるようになった	
		○季広の三男慶広が熊野に参詣し、その途次安土におい	

年号	西歴	史	実
一八	一五九〇	て織田信長に謁見	
慶長 四	一五九九	○慶広京都に上り豊臣秀吉に謁見、従五位に敘し民部大輔に任じ、蝦夷島主に待遇されて安東氏の配下を脱して独立。前松前藩時代となる	
八	一六〇三	○慶広、大阪で徳川家康に謁見し、蠣崎氏を改めて松前氏となる	
九	一六〇四	○徳川家康、征夷大將軍となり幕府を江戸に開く(二月)	
一一	一六〇六	○慶広、江戸に参勤(冬)	
二	一六一五	○宗谷に役宅を設け、利尻、礼文、樺太の司となる	
一	一六一五	○慶広、蝦夷交易独占権を公認され、蝦夷地交易の制を定めた	
寛永 二	一六三五	○新城落成してこの地を福山と名づけた(秋)	
一六	一六三九	○慶広、大阪夏の陣に出役、豊臣氏滅亡(五月)	
二〇	一六四三	○慶広没六九歳	
一	一六五五	○欧船の来航を平戸、長崎に制限。人身売買、たばこ栽培売買禁止	
明暦 一	一六五五	○参勤交代の制確立。寺社奉行設置	
		○松前公広、村上広儀に命じ封内を巡行させて蝦夷全島の地図を作らせた(宗谷滞在数日に及ぶ)	
		○佐藤加茂左衛門、蠣崎蔵人等に樺太巡検をさせた	
		○鎖国を断行し、宗門改めを行う	
		○知内金山でキリシタン宗徒一〇六人を斬首	
		○オランダ船(船長ド・フリース)厚岸に来て北海道東北海岸を探検(七月)	
		○魯国ユールフ、久留里島(千島)に来る	
		○瀬棚の蝦夷へナウケ反乱、蠣崎利広が平定	
		○蝦夷酋長シヤクシヤイン松前藩に叛き乱を起す。春、染退酋長シヤクシヤイン、波患酋長オニビシ福山に会し和睦	

寛文	六	一六六六	○飢饉、畜穀乾魚を以て貧民を救う(冬) ○このころ僧円空が来て参籠、仏像を納めた ○シヤクシャイン、オニビシを殺す。これより両夷間の争いが続く(四月)
延宝	八	一六八〇	○東西各地の蝦夷叛乱して和人二百数十名を殺す(夏)。幕命を受け松前泰広が征討、世に「国縫の大戦」という ○この歳、越後より漁網が松前に入った ○飢饉につき米五、〇〇〇石を津軽藩に依頼した
元禄	四	一六九一	○松前藩は西部神威岬以北へ婦女の通行を禁止 ○ロシアのカムチャツカ占領公布
宝永	四	一七〇七	○諸国大地震、富士山噴火(宝永山噴出) ○ロシア船千島列島を探検
元文	三	一七三八	○幕命により和人口調査、一万八、九八六人(夏) ○天明の大飢饉(奥羽より全国に及ぶ)
天明	三	一七八三	○浅間山噴火(死者二万人) ○蝦夷地飢饉、宗谷、目梨、樺太の夷人、餓死数百人に及ぶ(夏)
	四	一七八四	○松前藩造酒を禁止(九月)
	五	一七八五	○幕府蝦夷地の開拓を企て調査を始める ○林子平「三国通覧図説」を著わし、幕府は普請役山口鉄五郎らを松前に派遣して東西蝦夷地を探検させた(三月)
寛政	六	一七八六	○松前藩は藩士新井田隆助を遣わして樺太を視察させた ○ロシア人千島に来る。最上徳内、千島を探検して得撫島に渡る
	八	一七八八	○古川古松軒、蝦夷島に来て地図を製作
	一	一七八九	○国後、目梨の蝦夷叛乱して和人七一人を殺す。松前出兵により首領三七人を殺し、以後蝦夷の叛乱はなくなる(五月) ○幕府は最上徳内、和田兵太夫を樺太に遣わし巡検させる
	二	一七九〇	○松前藩厚岸・宗谷に勤番所を建て、ところどころに烽火を設けた。藩士高橋寛光を樺太に派遣して運上屋を建てた(夏)
	四	一七九二	○ロシア使節ラックスマン、伊勢の漂民幸太夫を伴い根室に来て通商を請ったが幕府は拒絶(九月) ○沿岸諸侯に海防を戒める
	二	一八〇〇	○伊能忠敬、東蝦夷地を実測。間宮林蔵西蝦夷地実測による全島地図作製
	一	一八〇一	○近藤重蔵、高田屋嘉兵衛が択捉島に行き、夷人を撫育して漁場一七カ所を開く(七月) ○高田屋嘉兵衛、得撫島に木標を建てる(一月)
	一	一八〇二	○松平忠明、羽田正義、石川忠房、箱館から東西に分かれて巡視、忠明は宗谷、正義は国後、忠房は知床に至る(四月) ○普請役中村小市郎等樺太を巡察(五月) ○支配勘定役富山元十郎等択捉より得撫に渡り「天長地久大日本七属島」の標柱を建てる(六月)
文化	二	一八〇二	○この歳、山越内を以て和夷の境界とする
	一	一八〇四	○蝦夷奉行を置く(二月)、箱館奉行と改めて政庁を箱館に置く(五月) ○東蝦夷地を幕府の直隸とする(七月)
	二	一八〇五	○箱館に築島竣工
	一	一八〇六	○有珠に善光寺(浄土宗)、様似に等樹院(天台宗)、厚岸に国泰寺(禅宗)を建てる
	二	一八〇七	○宗谷場所のノサップにロシア人上陸 ○天塩、宗谷地方に天然痘流行、利尻、礼文島のアイヌ大部分死滅、死者五百余人 ○幕府目付遠山金四郎ら西蝦夷を視察 ○レザノフの部下、フォストフ等樺太久春古丹の運上屋、倉庫、弁天社等を焼き退去(九月)
	三	一八〇七	○幕府西蝦夷地直轄、松前章広を陸奥梁川九、〇〇〇石

年号西歴	史実
文化 五 一八〇八	<ul style="list-style-type: none"> ○に移封(三月) ○ロシア船二隻択捉島内保に来襲、番屋を焼き四月二十九日紗那を襲う ○ロシア船札文沖で松前商船宜幸丸を襲う(五月) ○ロシア船ノサップ沖で松前藩船禎祥丸、利尻島で万春丸を襲い兵器・物品を奪う(六月) ○奉行羽太正養、露寇に対し南部・津軽藩増兵、秋田・庄内藩に出兵を命ずる ○南部、津軽両藩のほか仙台藩兵約二千人、会津藩兵一、六〇〇人、蝦夷地を警衛(四月) ○問宮林蔵、松田伝十郎樺太探検(四月) 六月宗谷に帰着、林蔵は七月再度樺太に向う ○樺太を北蝦夷と改称(六月) ○問宮林蔵、黒竜江地方探検(六月〜九月) ○樺太、宗谷の冬季警備をやめ増毛で越冬 ○千島を測量のロシア艦ジアナ号艦長ゴロインほか七名を捕えた(六月) ○択捉場所請負の高田屋嘉兵衛がロシア艦に捕えられカムチャッカに送られた(八月) ○幕府全蝦夷地を松前章広に返し、松前奉行を廃止(十月七日) ○北蝦夷久春古丹にロシア人七四人上陸して柵を築く(八月) ○松前藩一番隊、二番隊北蝦夷地に赴く(九月) ○松前藩一番隊が久春古丹で応接(四月) 五月十八日ロシア兵撤退 ○米艦五隻箱館に入港、港内測量(四月) ○箱館奉行を置き六月竹内保徳、七月堀利熙を奉行に補す

年号西歴	史実
慶応 一 一八六五	<ul style="list-style-type: none"> ○日英和親条約成る(八月) ○日露和親条約成る(十二月) ○蝦夷地を幕府直轄とする(二月) ○外国船に薪水、食糧等供給のため箱館港開港 ○日蘭和親条約成る(十二月) ○松浦武四郎、上川地方探検後、雨竜、空知及び石狩川から夕張、千歳の二川を調査 ○箱館通宝を箱館、松前及び東西蝦夷地に通用 ○岩内場所茅沼炭山開坑 ○五稜郭落成(三月) ○松前崇広、幕府老中格に班し陸海軍総奉行(後海陸軍総裁と改めた)に任ぜられた(六月) ○長州征伐(八月) ○ロシア兵樺太に築城(七月) ○朝廷、崇広の官位をなくし藩地謹慎とした(十月) ○王政復古の大号令がでる(十二月) ○鳥羽伏見の戦起り旧幕軍が惨敗(一月) ○箱館奉行(安政元年六月創置)を廃止、箱館裁判所創置したが、さらに箱館府と改称して総督は知事となる(四月) 箱館府兵を組織 ○江戸を「東京」と改称(七月) ○旧幕府の海軍副総裁榎本武揚、奥羽同盟の諸藩応援のため軍艦開陽、回天などを率いて品川湾を脱走する(八月)
元治 一 一八六四	
四 一八五七	
二 一八五五	
三 一八六七	
四 一八六八	